



はらじゅくかわら版

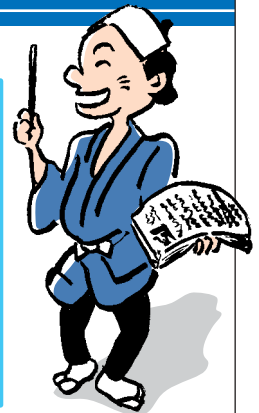
独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは、患者さまの人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者様中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者様がより良い医療が受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



地域医療連携巡回車と地域医療連携室職員

第18号

目次

19年度上半期の運営状況について	1
新病院建築状況	2
地域医療連携	
地域医療支援病院の承認得る	3
病診連携施設紹介	4
お知らせコーナー	
MDCT導入/外来受付時間の変更	5
検討会・研究会の開催	
助産師外来の開設/ジェネリック医薬品について	6
シリーズ	
看護部だより/新採用看護師コーナー	7
平成20年度看護職員募集	
平成20年度看護学生・看護職員募集	8

医師の人事異動	
職場紹介 — 整形外科/リハビリテーション科	9
行事等紹介	
納涼祭/防災の日/編集後記	10
～最後の仕事は二人で～	11
患者数の動向/外来担当医表	別紙

発行月：平成19年10月
 発行行：独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター
 広報委員会
 発行責任者：高橋 俊毅
 住所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電話：045-851-2621
 FAX：045-851-3902
 URL：<http://www.hosp.go.jp/~yokoham/>

19年度上半期の運営状況について



病院長 高橋 俊毅

本院が目指す方向性は、急性期医療を基盤とした質の高い総合的な専門医療を提供するとともに関係医療機関との密接な連携を持つ地域完結型医療です。

昨年度には、横浜市南西部における地域中核病院に位置付けられ、つい先月には、地域医療支援病院の承認を受けました。

これらは、地域への医療提供の貢献という観点から位置づけをいただいたもので、冒頭の地域完結型医療の推進に向け地域住民の更なる期待に応えるべく病院職員一丸となって進むべき道だと受け止めております。

より質の高い医療を提供していくことは、常に新しい情報収集と技術研鑽、さらに新たな整備（人材と物）が求められ、これらは止まることが許されません。特に整備については病院の経営状況に大きく左右し、悪化すれば新たな人材確保や医療機器等の整備がままならず、患者様に提供できる医療の範囲が限定されてしまいます。

したがって、より質の高い医療を提供する側の医療機関としては、経営状況を好転させることが必須になります。

そこで、本院の19年度上半期の患者数の状況を前年度と比較してみます。

	入院患者数	新入院患者数	外来患者数	外来新患率	救急患者数	うち救急車数
18'	379人	23.1人	753人	11.2%	1,180人	357台
19'	411人	24.9人	732人	12.2%	1,309人	422台
差引	+32人	+1.8人	△21人	+1.0%	+129人	+65台

〔※ 両年度とも9月までの累計実績。〕

入院患者数～外来患者数は一日平均、救急患者数と救急車来院数は一月平均。〕

はじめに患者数関係の主要指標ですが、外来患者数を除いては全てが差引プラスです。これは急性期医療の特徴である、救急患者数・救急車数の増加に伴い入院診療に比重が増しているといえます。外来患者数の減少は、地域医療機関との連携強化に伴う紹介・逆紹介の推進によるもので、外来新患率はこれらの推進により比率がアップしております。このことは非常に良い傾向といえます。

収支状況については、18年度はプラスマイナス0に近かったのですが、19年度は上述の入院患者数や救急患者数の受け入れ増加により若干の好転が見込まれます。

好転した収支を医療提供として患者様に還元し、さらに平成22年3月の病院全面建て替えに向けて経営基盤の安定化を図り、救急医療を中心とした地域住民の皆様が必要とされる病院を目指して参ります。

新病院建築状況

病院建替整備に向けた住民説明会の実施について

企画課長 竹内 茂男

病院建替整備については、来年（平成20年）3月整備着工、平成22年4月オープンに向けて、現在、諸作業が進められています。先般、横浜市（建築審査会）に対しては、11月建築承認を目指して諸手続きを開始し、その一環として、8月28日（火）に建替整備の計画概要（図1）を院内敷地（3カ所）に掲示し、住民の皆様へ、正式な計画概要（案）を示しました。更に、直接の説明として、平成19年8月30日（水）午後7時（於：当院看護学校体育館を会場）から、近隣住民の皆様への説明会を実施いたしました。

説明会当日は、平日であること並びに時間外であることから住民の皆様が出席していただくには難しい時間帯と思われましたが、約40名という多数の出席をいただきました。

説明会は、まず、当院の建替整備に係る計画概要（案）について、千田事務部長から、現時点における次の計画概要（案）について、具体的な説明を行いました。

- ①計画建物概要
- ②整備計画スケジュール
- ③整備計画位置図・完成予想平面図・完成立面図
- ④実日影及び法定日影図

続いて、説明内容に関する質疑応答に入り、出席された住民の皆様から、○新病院と公道との接道の安全性の確保は考えているのか、○外構設計は近接地を考慮した設計となるのか、○公開空地にかかる緑地・樹木等の計画的な植樹を考えているのか等々、計26件に及ぶたくさんの質問と、それに対する当院の現時点における計画（案）、考え方等の回答を行い活発な意見交換等が行われ、住民の当院建替整備に対する関心並びに新病院への期待の大きさ・深さがズシリと感じられた内容の濃い説明会となりました。

当日ご出席いただきました住民の皆様方、ご苦勞様でした。

今後、横浜市等との具体的調整に入りながら接道の関係、外構（緑地含む）の関係等を含めた実施設計図が確定する中で、節目・節目における進捗状況については、逐次、皆様方への説明を行って参りたいと考えております。



1. 計画建物概要		2. 整備計画スケジュール	
工事場所	神奈川県横浜市戸塚区 原宿3-60-2	平成19年3月～平成19年7月	基本設計図の作成
敷地面積	55,571.30㎡	平成19年7月～平成19年10月	実施設計図の作成
用途地域	第1種中高層住居専用 地域/準住居地域	平成20年2月	工事入札
建物用途	病院	平成20年3月	工事着工
工事種別	新築	平成22年2月	新病院完成
建築面積	10,163.10㎡	平成22年4月	新病院開院
建蔽率	20.2%（指定建蔽率60 /60%）	平成22年5月～既存建物取り壊し	駐車場及び緑地の整備
延床面積	32,886.70㎡		
容積率	62.6%（指定容積率150 /200%）		
高さ	28.5m		
階数	地上7階 4棟		
構造	鉄筋コンクリート造		
外装	タイル貼		

地域医療連携室から

地域医療支援病院の承認得る

経営企画室長 樋口 弥

当院は平成19年9月26日付で、神奈川県内で11番目、横浜市内では5番目の地域医療支援病院の承認を受けました。

地域医療支援病院は、医療法（わが国の医療施設に関する基本法）で定められた要件に該当し、都道府県知事からの承認を受けた病院だけが使用できる名称です。

この名称は、地域の医療を確保するために必要な支援及び機能を有する病院に対して承認されるもので、その主な要件は以下のとおりです。

- ① 紹介患者様に対する医療提供として、紹介率と逆紹介率が基準以上を満たすこと。
- ② 地域医療機関の登録医制度を設け、専用病床を確保し、医療機器等が共同利用できること。
- ③ 24時間体制で救急医療の提供を行えること。
- ④ 地域医療従事者に対する研修を行う体制が整っていること。

以上の要件について、当院の取り組みとしては、

- ① 前年度の紹介率は66.2%、逆紹介率は41.5%でした。

（当院が申請した基準は、紹介率60%以上、逆紹介率30%以上です。）

なお、紹介率とは、初診で受診した患者数に対し当院にご紹介いただいた患者数等により算出します。逆紹介率は当院からご紹介させていただいた患者数等により算出します。

- ② 当院に登録いただいている地域の先生方は487人(352病院・医院)です。

また、常時共同利用可能な専用病床を5床確保し、MRIやCT等の医療機器の共同利用を行っております。

- ③ 救急救命センターを中心に「365日24時間救急」を実施しております。

- ④ 当院が主催する症例検討会の他、医療従事者を対象とした講演会や勉強会を実施しております。

これらの取り組みの他にも、上述②の登録いただいている先生方へ、9月から地域医療連携室を中心に訪問させていただいております。

その主旨は、登録医である先生方との更なる連携強化の一環として、また、患者様への医療サービスの推進であります。

特に患者様へのサービス提供としては、別紙「リーフレット」というものを作成しております。

これは、当院にご紹介いただく際、あるいは当院から登録医の先生方へ紹介をさせていただく際に患者様にお渡しするもので、その中身は、先生方の写真とあいさつ、そして診療時間やアクセス図などを一枚にまとめ、コンパクトな病院紹介のパンフレットをイメージとしたものです。

「リーフレット」をご覧いただくことにより、患者様には紹介先の病医院の概要をあらかじめ知っていただくとともに、少しでも転院の不安を軽減できたら、と思っております。

もちろん、「リーフレット」は紹介時だけではなく、当院のインフォメーションカウンター及び地域医療連携室等に具備し、来院者にいつでもご覧いただけるように、また当院のホームページにも掲載させていただくことにより、広くご覧いただけるようにと準備しております。

今後も、地域の先生方からのご協力を賜り、急性期医療を基盤とした、地域の皆様が安心かつ適切な質の高い医療を受けられる環境づくりに取り組んで参ります。



地域医療連携

病診連携施設紹介

小泉小児クリニック

診療科目：小児科・アレルギー科

小泉小児クリニックは、市営地下鉄および神奈中バスの踊場駅、あるいは長後街道の踊場交番前交差点より徒歩約3分、踊場駅前郵便局並びにあります。小児科・アレルギー科の診療所として、今年夏に10年目を迎えることができました。赤ちゃんの頃から来院いただいたお子様が、園に通い小学校に入学し、今度は元気に弟妹に付き添うお姿を拝見すると感慨もひとしおです。これもひとえに皆様方のあたたかいご支援をいただいたおかげと、心より感謝いたしております。



右側 小泉 友喜彦院長

特に横浜医療センターは、当院では対応できない緊急で高度な検査や治療を要する場合など多くの患者様を診ていただくのみならず、最近では戸塚区泉区の拠点病院として私共開業医と勉強会などを介した連携に積極的に取り組んでいただいております。大変お世話になっております。

当院はどなたでも気軽にご相談いただき、ご家族皆様のかかりつけ医としてご利用いただける医院をめざしております。お子様はもとより、大人の方でも特にぜんそく、花粉症、じんま疹、アトピー性皮膚炎等アレルギー疾患や片頭痛などを多く拝見いたしており、常に最新の医療の提供と丁寧で分かりやすい説明、納得いただける治療を心がけております。

また診療所という地域医療最前線の現場を学んでいただくため、当院では医学部・看護学校の学生や卒後1,2年の先生方の研修をおこなっております。母校である慶應義塾大学病院からはじまり、数年前からは横浜医療センター等で研修中の先生方にも実習にいらしていただいております。非力ながら、日頃お世話になっている病院に少しでもお役に立てればと考えております。時々若い先生と一緒に拝見することがあります。ご理解をいただければ幸いです。

最後になりましたが、横浜医療センターにはこの度『はらじゅくかわら版』に当院をご紹介いただける光栄にあずかりましたこと、さらに日頃多大な援助をいただいておりますこと、この場をお借りして御礼申し上げます。当院は横浜医療センターを拠点とした地域医療ネットワークの一員として、職員一同さらなる努力をいたす所存です。今後とも横浜医療センター共々、よろしく願い申し上げます



小泉小児クリニック

〒245-0061 戸塚区汲沢8-5-5

TEL 045-871-5566 F A X 045-871-1003

診療時間 月・火・水・金 9：00～12：00 15：30～18：30

木・土 9：00～12：00

予防接種・健康診断は14：00～ (要電話予約)

お知らせコーナー

新しい検査装置の紹介

MDCTの使用開始について

診療放射線技師長 梶谷 敏郎

ドーナツ状の短いトンネルに入るエックス線CTについては、皆様すでにご存知のことと思います。中には体験された方もいらっしゃるかも知れません。

今までのCTは、ドーナツの中で機械が一回転することで一枚の輪切り写真が出来上がっていました。しかし、今回当院に導入したCTは一回転で同時に64枚の写真を作ることが出来ます。これが、MDCT（マルチディテクターCT）の名前の由来であり、MSCT（マルチスライスCT）とも言います。

一回転の時間も0.5秒と大幅に短くなり、検査時間も短縮され、呼吸を止めなければならない検査においても、検査を受けられる皆様の負担（苦痛）をかなり軽減できることになり、被曝量も技術革新により従来のものに比べかなり軽減することが出来るようになりました。また、短時間に沢山のデータを取ることが出来るようになったために、これまでCTと言えば輪切りの写真が主流でしたが、輪切り写真を重ね合わせたデータから精密で、きめの細かい3次元（立体）画像や、縦切り画像を作成することが可能になり、より正確で分かりやすい画像検査を提供し、更に質の高い診断をサポートできるようになりました。

これからもより安全で信頼される医療の推進に努めてまいりますのでご支援のほど宜しくお願いいたします。



10月から外来受付時間が10時までとなりました。

外来受付時間を10時にすることで、より多くの手術や救急医療に傾注し、入院診療を主体とした地域の要望に応えられる急性期医療を提供させていただきます。

なお、救急の診療や他院からの紹介状を持参される場合については、この限りではありません。

皆様のご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。



横浜医療センター病例検討会・研究会開催のお知らせ

西横浜整形外科症例検討会

開催日時 毎月第3木曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 日塔整形外科部長

045-851-2621（代）

各症例検討会・研究会にご興味をお持ちの先生は、どなたでも参加を歓迎いたしますので、ご連絡下さい

横浜藤沢消化器疾患研究会

開催日時 毎月第2月曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 小松臨床研究部長・松島消化器科部長

045-851-2621（代）

お知らせコーナー

助産師外来を開設して

西1階病棟 看護師長 篠原 祐子

平成17年4月より産婦人科病棟と産婦人科外来の連携を開始し、現在病棟助産師2名が妊婦健診介助を行っています。最近、当院を受診する妊婦さんの傾向は、若年妊婦が増えていることや核家族化により、身近にサポートしてくれる人が少ない傾向にあり、保健指導がますます重要になっています。しかし、当院では妊婦健診の介助が主になっており、妊婦さんの質問等にゆとりをもって対応できない状況です。そこで今年7月より第2、4火曜日（9時～16時）に助産師外来を開設しました。助産師外来は別室を設けていますので、助産師が個別に相談を受けることができます。指導の内容は、体重コントロール、妊娠中の不安、分娩の準備、バースプランなどです。バースプランでは、どのような分娩をしたいのかをあらかじめ妊婦さんの希望を確認し、妊娠中の過ごし方や分娩の準備、赤ちゃんを迎える準備などをアドバイスすることで、納得できるお産や育児の助けになるようにしたいと思っています。病棟は全員助産師の配置となり、助産師自身も研修に参加し、知識技術を深めています。それらを妊婦、産婦さんに還元できるように助産師各々頑張っています。

助産師外来は妊婦健診の時に予約を受け付けておりますので、助産師に気軽に声をかけてください。受診をお待ちしております。

ジェネリック医薬品について

副薬剤科長 佐藤 和人

最近、テレビCM、新聞広告などのマスメディアを通しジェネリック医薬品が紹介されていますが、ジェネリック医薬品とは何でしょうか？

新薬は新しい物質を発見し、動物での試験を繰り返してからヒトでの臨床試験（治験）を行い、有効性、安全性を確認した後に厚生労働省の承認審査を経て発売されます。その研究開発には10～15年かかるといわれ、開発費用も数百億円単位となり、開発した製薬会社は特許権を取得しますので独占販売となり当然価格は高くなります。

ジェネリック医薬品は、新薬の特許期間が切れた医薬品と同成分の医薬品を言い、開発費が少ないだけ価格は新薬の2～8割と安くなります。

現在わが国のジェネリック医薬品に対する国民の認識は、国内最大級のインターネット調査によると（2007年8月）、使用したことがある人は9.3%にすぎませんが、内容を理解している人を合わせると認知度は62.3%にのぼり、徐々に定着しつつあると思われます。しかしながら、2004年度わが国のジェネリック医薬品のシェアは16.8%で、米国56%、英国60%と比較すると著しく低くなっています。

この原因としてはいくつかの問題点が考えられます。初めに品質の問題ですが、ジェネリック医薬品も先発医薬品と同じ基準のもとで製造・販売されていますが、一部で品質、効果等について「問題あり」と報告を受けた医薬品があります。さらに、供給量が使用量の増加に対し追いつかないケースがあったり、医薬品の情報収集や伝達の手段が十分でなく、重要な医薬品情報が医師、薬剤師等の医療従事者に伝わらないことがある、などが言われています。

しかし、ジェネリック医薬品を使用することにより患者様の薬代の負担が減り、高騰する医療費の抑制にもつながります。厚生労働省は来年度からジェネリック医薬品の品質強化に力を入れていくために新機関を設立する予定で、ジェネリック医薬品の更なる普及を目指しています。

看護部だより

★★★新採用看護師コーナー★★★

平成19年4月、助産師・看護師国家試験に合格したフレッシュマン55名が採用されました。今、各々が夢実現に向かって毎日頑張っています。病棟で彼らを助け、支援している先輩にお礼を申し上げますと共に、代表して2人のフレッシュマンの活躍を紹介します。

「夢実現の第一歩をスタートして」

ICU 看護師 佐藤 雄太

「救命の現場で働きたい!」そう思い、ICUの配属を希望した。その最も大きな動機は、ライフセービングという活動を通じてだと思う。そこで経験したある死亡事故を通して「人が生きること」ということを自分の中で整理したいと考えたからだ。

ICUの看護師として働き半年が過ぎようとしている。僕はこの半年間、振り返る間もなく夢中で過ごしていたような気がする。ICUでは急変・緊急入院など毎日様々なことが起こる。患者の急変時、何をどうしていいのかわからず、ただ呆然としてしまったこともあった。焦りで普段できることがまったくできなかったこともあるし、初めての夜勤の夜は上手く眠ることもできなかった。

プリセプターをはじめ多くの先輩の指導、また研修を通じ入社時と比べ、確かにできることは増えた。でも一方で覚えなくてはならないこと、これからの課題をより具体的に実感している。期待や自信といった感情もある反面、恐怖や不安といった感情もある。

この先、僕に何ができるのかわからないし、理想とする姿なんかになれないかもしれない。それでも、こんな僕がどこまでいけるか。また、どこまで近づけるのか、自分を信じ、そして昨日の自分より今日の自分が1mmでも前進できるよう、一日一日を大事にしていきたいと思う。



「安全・安心・元気な看護を実践したい」

西3階病棟 看護師 長沢 扶紀子

横浜医療センターに就職してから半年が経ちます。

生まれ故郷の秋田から上京し、右も左も分からないこの横浜で、まして看護師という患者様の命を預かる責任重大な職業につくということもあり、就職当時は、緊張の毎日で夜も眠れなかったことを思い出します。同期の支え、厳しくも愛情のこもったプリセプターさんをはじめ、先輩方々の指導を受けながら日々の看護を実践してきました。

半年間には、思い通りの看護ができない時もあり、何もできない自分に苛立ち、葛藤したこともありました。しかし、自分の看護した患者様が元気になられていく姿を見ることが、私の元気の活力となっていることに気づきました。

最近では、自信をもってできる仕事も増え、毎日が充実しています。これからも看護部の理念である安全・安心、そして明るく元気な看護に努めて、皆さまに愛される看護師を目指します。



平成20年度看護職員募集

当院は27の診療科を標榜している急性期の総合病院です。特にがん、循環器、精神疾患、成育医療、内分泌・代謝疾患、骨・運動器、肝疾患、長寿医療の8分野においては専門医療施設であり、救命救急医療や地域医療支援病院として地域に愛される病院を目指しています。1年間における分娩件数は約600件、手術件数は約3000件、救急車受け入れは約4500件の実績があります。専任の教育担当看護師長や医療安全係長、皮膚・排泄やがん性疼痛・感染など複数の認定看護職員が臨床の指導や教育に携わっています。「明るく」「健康」で「笑顔」の素敵な看護職員を募集しています。

- ☆ 平成20年4月に看護師免許取得予定者
- ☆ 臨床からしばらく離れていた方
- ☆ 短時間勤務希望
- ☆ 夜間専従勤務希望 などご相談ください。
- ☆ 院内保育所が敷地内にありますので未就学児がいる方は利用してください。

詳しくは当院管理課人事係へお問い合わせ下さい。

☎：045-851-2621 内線 2265

平成20年度看護学生・看護職員募集

平成20年度 看護学校学生募集について 横浜看護学校 教員 永重 英子

当校は、推薦入試、社会人入試、一般入試を行っております。詳しくは、看護学校のホームページにて紹介しております。どうぞ、ご覧ください。

1. 推薦入試は、本校が指定する高校の学校長様宛に1名の推薦をお願いしております。指定校は、公表されておきませんので、当校の受験を希望される高校生の方は、指定校推薦があるか、進路担当の先生にご確認ください。
2. 社会人入試は、高校卒業および高校卒業と同等とみなされる資格を持ち、社会人として2年以上（通算して）の就労をされた方を条件としています。また、社会人入学試験で、合格に至らなかった場合でも、一般入学試験（一斉入試）を改めて受けることもできます。
3. 一般入学試験は、関東信越内の10校の国立病院機構を設置主体とする看護学校で、一斉入試を行っております。その特典としては、10校のうち、第3希望まで併願することができます。例えば、第1希望校で二次試験まで補欠合格となった場合、第1希望校に限らず併願校を含めて欠員が生じた時、該当校の入学資格を得ることができる制度です。

9月15日(土)学校祭が終了しました。近隣の皆様にも多くご来校頂き、厚く御礼申し上げます。これからも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



学校祭の様子



◆◆◆◆医師の人事異動◆◆◆◆

(H19.7.2~H19.10.1)

退職者等				採用者等				
発令年月日	発令	氏名	職名	退職後の施設名	発令年月日	発令	氏名	職名
平成19年9月30日	退職	外村 光康	産婦人科部長	医療法人相生会臨床薬理センター本所クリニック	平成19年9月1日	採用	長濱 晶子	小児科医師
平成19年9月30日	退職	朴 圭一	整形外科レジデント	上尾中央総合病院	平成19年10月1日	採用	窪田 與志	産婦人科部長
					平成19年10月1日	採用	和田 裕美子	産婦人科医師
					平成19年10月1日	採用	森山 慶太	整形外科レジデント

職 場 紹 介

●今回は整形外科/
リハビリテーション科の
紹介です。

整形外科

整形外科部長 日塔 寛昇（にっとう ひろのり）

整形外科は救急を含めた外傷、脊椎、四肢の疾患、リウマチ、骨軟部腫瘍、スポーツ障害など幅広く診療する科です。当院では私、國府医長、小椋医師、河井医師、森山医師、川島医師の6人のスタッフが担当しております。当科の特徴としましては、脊椎疾患、人工関節、骨軟部腫瘍の紹介患者が多いことがあげられます。入院患者は救急外傷などが半分を占め、その他人工関節、関節鏡など関節疾患、腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、脊髄損傷などの脊椎疾患、骨軟部腫瘍など合わせて1日平均36人程度となっております。ベッド数に限りがあるため、リハビリテ



筆者 前列中央

ーション等で長い入院になりそうな方は転院をお願いしております。川井師長をはじめとした看護スタッフ、小町主任をはじめとした4人の理学療法士とはカンファランスを定期的で開催して診療方針を共有するようしております。10月から予約の方のみですが、スポーツ選手等を対象にしたスポーツ整形外科外来という専門外来を火曜日午後3時から4時にはじめました。また対外的には近隣の戸塚、泉、藤沢、栄、港南の診療所の医師、戸塚共立病院、栄共済病院、国際親善病院、済生会横浜市南部病院の整形外科医師などに集まっていただき、西横浜整形外科医会として症例検討会、講演会を合わせて年8回行っております。これからも西横浜地区の基幹病院として皆様から信頼されるよう頑張っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

リハビリテーション科

運動療法主任 小町 利治（こまち としはる）

リハビリテーション科では、院内の幅広い診療科の患者様の機能改善と共に日常生活動作能力の向上を図り、患者様自身のみならず、そのご家族も含めたQOLの改善を獲得することを目標とし日々努力をしているところであります。現在スタッフは、運動療法主任1名を含め4人の理学療法士（PT）が勤務しております。対象は、整形外科の患者様で全体の約40%で最も多く、脳外科、神経内科がそれぞれ約20%で、上記3科で約8割を占めています。整形外科では主に転倒や交通外傷による骨折、あるいは脊椎疾患の術後が多く、神経内



筆者 左から二番目

科、脳外科では急性期の脳梗塞、脳出血がその大半を占めています。また、チーム医療を図るため、隔週に整形外科、神経内科、脳外科主治医とMSW、看護師参加の元ケースカンファレンスを開催しています。

当院では職域としてPTのみで、リハビリ専門医、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)が不在なため、多様なニーズを持つ患者様に適切なリハビリテーションサービスが行えていない現状にあり、チーム医療の実施には、主治医、看護師の方々を初めとした、関係者各位の協力は不可欠と考えております。

独立行政法人化も4年目を迎え、また新病院オープンに向け、今後は質的にも量的にも良質な医療サービスを提供し地域医療支援病院として相応しいリハビリテーション科へ成長することを目標とし、「患者様中心の医療」「地域完結型医療」「地域で選ばれる病院」の実現に向けて日々努力してまいります。

行事等紹介

●第1回横浜医療センター納涼祭

庶務係長 大島 朗

平成19年7月25日(水)に当院看護学校体育館において、第1回納涼祭が開催されました。企画から開催までの期間が短いなか、各部署より選出された20名の精鋭(納涼会実行委員)により数回の委員会が開催されました。当初、準備期間の短さから委員の間では開催を危惧する声も聞かれましたが、他院で開催された納涼祭の話等を聞き徐々にイメージを湧かせ、開催日までなんとか漕ぎつける事ができました。当日はビニールシートを敷き、看板を掲げ、各ブースの設営に始まり、おでん、焼き鳥、焼そば等を200名分用意した他、参加者の家族向けに水ヨーヨーやわた飴の準備をし、委員はお揃いのハッピーを着て準備万端で納涼会に挑みました。いざ蓋をあけてみると、企画段階の不安を吹き飛ばす盛況ぶりに、委員も驚きを隠せませんでした。準備した飲み物や食べ物は次々と売り切れ、研修医の先生方による際どいパフォーマンスで一気に火が付き、最後は恒例のビンゴ大会で会場は盛況を極め終演となりました。このようなお祭りを通して職員間の交流が深まる事により、業務の円滑化が図れるメリットは非常に大きいものです。業務の合間をぬっての準備等は大変でしたが、実行委員としての参加はとてやり甲斐があります。次回の実行委員はあなたです!奮ってご応募ください。



●防災の日：当院の非常食備蓄状況

栄養管理室長 二宮 るみ子

栄養管理室では非常時に対応できる食糧品を常備しています。現在、固形食が400名×2日分、濃厚流動食が30名×2日分、乳児用の粉ミルクが約10名分あります。固形食はパン缶、 α 米ご飯、白粥等を主食に、2日間毎食異なる献立にしております。副食にはパンに合うポテトツナサラダ缶やツナノンオイル缶等、1缶1人分の容量のものを用意しています。ご飯に合うおかずとしては牛大和煮缶、切り干し大根缶、五目煮缶等を揃えています。これらにミネラルウォーターを加えると1日約1900kcal、たんぱく質85gになります。これは成人の1人1日当たりのエネルギー量及び栄養量として十分な量です。非常食を保管している倉庫には献立表を掲示して、居合わせた職員がすぐに対応できるようにしています。

濃厚流動食というのは重湯やスープに比べるとエネルギーが高く、1mlが1kcal以上の飲み物です。普通に飲むこともできますが、口から食べ物を摂ることができず、胃ろうからチューブで栄養を摂る人に使います。

非常食を持つことの悩みは賞味期限です。賞味期限が来る前に更新しなければなりません。患者食として購入していますので、賞味期限が切れる前に日常の献立に組み入れて、非常食の備蓄に空白期間がないよう工夫しています。この非常食を実際に使用することに比べれば、更新するための献立作成上の悩みなど微々たるものです。更新のみが延々と続くことを切に願っています。



編集後記

真夏の厳しい暑さにも翳りがみえ、残暑が続く中にあっても吹く風に秋が感じられるようになってきました。当院では、横浜市地域中核病院に続き地域医療支援病院の承認と新棟建築を前に、着々と準備が整いつつあります。

地域の移り変わりや季節の移ろいを感じつつ、横浜医療センターも、より良い医療の提供を目指して変わっていきます。

外来係長 三森 泉

最後の仕事は二人で

山中 達
山中 陽子 共著

西4の看護師さん達と

僕の面倒を見てくれる
看護師さんは七、八人いる。
皆んな良い人達だ、
やさしい。

決して同情はしないが、
気持よく付き合ってくれる。
若いけどベテランだ。

さちんと看護師の勉強をして、
夢を持って仕事をしている人が多い。
仕事はきついが、

人の命を守る仕事をさちんと、
手際良くこなす。

関心するのは、
自分の知らないことは
良く知っている人に必ず教えてもらって、
誤りが少なくなるようにしていることだ。

今日は僕のためにエスプレッツ・コーヒーを一缶、
下の階まで買いにいってもらった。
本当に楽しいつきあいが続いている。

皆んな一人一人が
責任を自覚し、
浮き足立った所は
全く感じられない。

ここに今度戻ってくるときは
死期間近であり、
こちららは全く余裕などない。

笑顔もない状態であろう。

でも安心して、
皆んなに僕の死を看取ってもらえるだろう。
こんな一時期をもつことが出来たこと自体が
幸せだった。

ボールペンが無くなってきた。
大変だ。

明日売店が開いているか？
詰め所へ行つて
ボールペンを貸してもらおう
手はあるか？

明日、十一月二十七日、
僕のステレオは運び出されて
甥の所有となる。

これを書きながら
肺ガンであること
を実感する。

少し立って歩くと
息が苦しくなる。
呼吸に余裕がない。
右肩と胃のあたりが少し麻痺してこわばって、
空気を少ししか吸い込めない。
残念だが現実だ。
死が近づいている。

十一月二十七日、朝日が昇るのが窓から見える。

看護師さんにボールペンが売店で買えるか尋ねたところ、
快く一日貸してくれることになった。
貸してくれたボールペンには、Z-THERMOMAC とある。
薬の名？

今日もがんばって、玉縄の自宅に一日でも良いから帰る日を
夢見よう。

何でも希望を持つしかない。
うまくことが運ぶことを祈るのみ。

肺ガンになったのは、

ある意味、当然の結果だ。

タバコ、キャメルフィルター、最も強いタバコの二つを吸い、
酒を飲み、
夜ふかしたのだから。

しかし現実には肺ガンになり、
抗ガン剤に完全なものはなく、
完全な治療法はまだ確立されていないと宣告され、

死以外に選択の余地はないとなると、
やはり悲しい。

飯にあと十年生きられると今宣告されると
今までとは異なる生活を始めたかも知れない。

墓の所在は高知市、筆山霊園。

看護師長さん

いろんな仕事の
潤滑油、

にならないと
馬鹿にされる仕事

の典型
のようだ、

あつちで困れば
あれを助け、

こつちで取る、

つじつまが合わなくても
良い。

— 本文より —

山中 達様は当院西4階病棟に入院していただきました。
入院中の思いを奥様の山中 陽子様と最後の仕事は二人で」
にまとめ、自費出版され、当院に寄贈していただきました
のでご紹介致します。



診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考	
内科	総合内科 第1・3週消化器 第2・4週循環器 第5週神経内科	川原 智子	松浦 宏之	関口 章子	曾我 隆義	△:午後1:00~2:00(受付時間) ▲:紹介状持参の方のみ	
	糖尿病 内分泌内科	高木 佐知子	今井 えりか	須澤 直木	宇治原 誠(予約のみ)	注 宇治原 誠(予約のみ)	
	神経内科	土井 宏	△高橋 竜哉	検査日	遠藤 雅直	検査日	
	呼吸器内科	椿原 基史	検査日	山川 泰	検査日	椿原 基史	
	消化器内科	交代医師	交代医師	松島 昭三	神津 知永	小松 達司	消化器科 月・火午前は新患・急患・紹介のみ、火曜日交代医師 1・3・5週小松 2・4週松島 ■:午後の予約のみ
	循環器科	巽 藤緒	岩出 和徳	田中 直秀	▲田中 直秀	岩出 和徳	《循環器科新患当番医》 (月)第1・2[田中]・第3・4・5[岩出] (火)田中・(水)岩出・(木)田中[岩出]・(金)巽
	リウマチ・アレルギー科	加藤 丈二	ヘーサーカ外来	検査日	検査日	■曾我 隆義 ■関口 章子	
心療内科	検査日	成田 謙田	武川 吉和	検査日	検査日	完全予約制(要紹介状)で午後のみ<火曜日>奇数週(一般心身症)成田・偶数日(女性心身症)鎌田/<水曜日>(一般・小児心身症)武川	
精神科	山口 隆之	武川 吉和	山口 隆之	成田 博之 鎌田 鮎子	武川 吉和	※月～金:新患受付は10時まで受付可。(要紹介状、1日2名の予約制) 但し、当該医師以外の医師が診察いたします。詳細は精神科外来にお尋ねください。	
小児科	鍋木 陽一	菅井 和子	鍋木 陽一	小林 慈典 注②	鍋木 陽一	注②第4週長濱	
	西山 綾 注①	小郷 寛史 注③	菅井 和子	和田 芳雄 注⑤	神山 明美	注①第1週和田 第3週大山 注③第4・5週根本 注⑤第1週大山	
	長濱 晶子 注④	長濱 晶子 注⑥				注⑤第4・5週のみ 注⑥第2週のみ	
外科	清水 哲也	関戸 仁	松田 悟郎		◆高橋 俊毅 ◆山本 俊郎	◆:完全予約制	
乳腺外科		◎土井 卓子 ◎田辺 美樹子		◎土井 卓子 ◎田辺 美樹子		◎:乳腺外来(火・木)完全予約制	
呼吸器外科					坂本 和裕 山仲 一輝	ご紹介については外来日以外でも随時受け付けておりますので、直接ご連絡ください。	
整形外科	国府 秀俊	日塔 寛昇	国府 秀俊	日塔 寛昇	日塔 寛昇		
	小椋 研 河井 卓也	国府 秀俊 森山 慶太	河井 卓也 川島 史義	小椋 研 森山 慶太	小椋 研 川島 史義	(受付時間)初診・予約外再診とも 8:30~10:00	
形成外科	高瀬 税		◎高瀬 税	高瀬 税	高瀬 税	□:手術日のため午前のみ	
脳神経外科	急患のみ (手術日)	▲ 交代医師 ※(脳ドック)	竹本 安範 ※(脳ドック)	急患のみ (手術日)	藤津 和彦 市川 輝夫	▲:第1・3・5週(火)岡田 富 第2・4週(火)宮原 宏輔 ※詳細はPM1:00~5:00の間に地域医療連携室までお問い合わせください	
					※(脳ドック)		
心臓血管外科	益子原 幸宏	手術日	東館 雅文	東館 雅文	東館 雅文	木曜日は予約患者のみ(新患受付無し)	
皮膚科	坪井 廣美	山本 都美	坪井 廣美	坪井 廣美	坪井 廣美		
	山本 都美	百瀬 葉子	山本 都美	百瀬 葉子	山本 都美		
泌尿器科	百瀬 葉子				百瀬 葉子		
産婦人科	松本 光代	窪田 与志	窪田 与志	乗杉 輝彦	中村 秋彦		
産婦人科	窪田 与志	斎藤 要	中村 秋彦	中村 秋彦	松本 光代		
眼科	清水 康平	手術日	清水 康平	清水 康平	手術日	(受付)初診・予約外再診とも 月・水・木曜日 8:30~10:00 火・金曜日は新患(要紹介状)・急患のみとなります。8:30~9:30	
耳鼻咽喉科	深澤 雅彦	向出 光博	杉山 裕	小宅 大輔	休診	(受付)初診・予約外再診とも 月～木8:30~10:00まで	
放射線科		中山 優子 ※注①			中山 優子 ※注②	※注①火曜日9:00~11:00【完全予約制】 ※注②金曜日13:30~15:30【予約は内線4307まで】【完全予約】	
歯科口腔外科	塩入 重彰 (再診のみ)	塩入 / 大槻 (午前初診・ 午後再診)	手術日	塩入 / 大槻 (午前初診・ 午後再診)	塩入重彰(再診のみ) 大槻伸江(再診のみ)	初診は、火・木曜日8:30~10:00。初診急患は随時受付(紹介状から直接ご連絡ください)。再診は完全予約制。再診急患は電話をお願いします。 初診可能な限り、紹介状又は診療情報提供書を持参して下さい 詳細については歯科口腔外科部長にお問い合わせください。	
専門外来(午後のみ)	小児	喘息(鍋木・菅井) 腎(伊藤)※第1週 アレルギー検査 (交代医師) 喘息(鍋木) 喘息(菅井)	喘息(石田) 第2・4週 喘息(菅井)	喘息(菅井)	乳児検診 (交代医師)	循環器(鍋木) ※第3以外 予防接種(交代医師)	
	外科	横浜乳がん検診 ※注④	腫化学療法外来	腫化学療法外来	腫化学療法外来	腫化学療法外来	
	女性診療外来	※注⑤					
	スポーツ整形外科		※注⑥				
	産婦	母親教室	助産師外来 ※注⑧第2・4週		母乳外来		※注⑧担当医:【国府・小椋】 毎週15:00~16:00
	循環		ヘーサーカ外来 ※注⑦				※注⑦ 第1・3・5週【加藤】 第2週【巽】 ※注⑧7月より開設

初診 受付: 平日 8:30~10:00
再診 (予約外) 受付: 平日 8:30~10:00
休診 日: 土曜・日曜日・祝日・12月29日~1月3日
地域医療連携室(脳ドック受付)(TEL 045-853-2331)

※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
※紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。
※地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月～金 8:30~17:00)
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)
FAX 045-853-8356

お知らせ 色つき部分が変わ箇所となります。ご確認の上受診ください。

※10月から外来受付時間が10時までとなります。

(写真右)

戸塚は江戸時代には東海道の宿場として栄えており、旅籠の数も小田原に次ぐ所で江戸より10里、小田原まで10里と中間点にあるため、江戸を朝立ちして戸塚で泊まり翌朝小田原に向かって出発するので大変賑わった町でした。
又、現在の戸塚消防署とスルガ銀行戸塚支店の間は大商店が立ち並び、旅籠や遊廓等が点在していました。



